

平成 25 年 7 月 3 日

## NTTインターコミュニケーション・センター [ICC] 夏休みイベント「ICC キッズ・プログラム 2013」の開催について

- NTT東日本が運営する文化施設NTTインターコミュニケーション・センター※1(以下、ICC)では、子どもから大人まで楽しめるイベント「ICC キッズ・プログラム 2013」を平成25年7月30日(火)から平成25年9月1日(日)まで開催します。(入場無料)
- 「ICC キッズ・プログラム」は、最新のメディア・アート※2に触れることで子どもたちの好奇心と想像力を育むことを目的に、平成18年より開催している夏休みの子ども向けイベントです。作品展示の他にアーティストによるトークや、ワークショップなどを開催します。
- 今回は「ものみる うごく AR美術館」と題して、AR(拡張現実)技術を使った、もうひとつの「現実」を見ることをテーマとします。

※ 1 日本の電話事業 100 周年記念事業として、また NTT の文化・社会貢献活動の一環として、平成 2 年からプレ活動を開始し、平成 9 年東京(新宿区西新宿<初台>)にメディア・アートの展示を中心としてオープンした文化施設。

※ 2 コンピュータをはじめとするさまざまな先端メディア・テクノロジーを使用したアート作品を総称する言葉。

1. 開催期間 平成 25 年 7 月 30 日(火)～平成 25 年 9 月 1 日(日) 午前 11 時～午後 6 時  
休館日: 月曜日、8月4日(日)(保守点検日)

2. 入場料 無料

### 3. プログラム概要

今年のキッズ・プログラムは、「ものみる うごく AR美術館」と題し、情報科学芸術大学院大学教授でメディア作家の赤松正行+ARART プロジェクトによる、AR(拡張現実)技術を使った、もうひとつの「現実」を見ることをテーマとします。

会場に展示されている絵画や写真やイラストを、携帯端末のカメラを通して見てみると、イラストが動き出して物語を紡ぎ始めたり、写真の花のつぼみが開花したり、さまざまに変化します。例えばルイス・キャロルの童話『不思議の国のアリス』のジョン・テニエルによって描かれた有名な挿絵や、立方体にぎっしりと描かれた素朴で可愛い表情を持った線画のキャラクター達が、思いがけない出来事をおこしたりします。さらにカメラの中の絵の動きに呼応して、スピーカーから音が聞こえてきます。

現実の世界に、実際には見えていないもうひとつの世界を重ね合わせることができるのがAR技術の特徴です。コンピュータや映像の先端的技術や表現を取り入れたこれらの作品は、そう遠くない未来における、人とメディアの関わり方を垣間見せてくれることでしょう。



赤松正行 《ウロボロスのトーチ》



北村穰 《モーメンツ・オブ・ブルーム》



大石暁規 《スマイル・ワールド》

#### 4. その他

作品展示のほか、アーティストによるトーク、子ども向けのワークショップなどの開催を予定しております。詳細は、別途ICCホームページ(<http://www.ntticc.or.jp>)にてお知らせします。

#### 5. ICCのご案内

所在地：東京都新宿区西新宿 3-20-2 東京オペラシティタワー 4階  
(京王新線 初台駅東口から徒歩2分)

